



患サポ通信

— ささえちゃん便り —

第 114 号



心身医療科



心身医療科では精神疾患の診断・治療を幅広く行っており、今回はその中から治療抵抗性統合失調症に対するクロザピン治療についてご紹介します。

統合失調症は有病率 1%と決して稀な疾患ではなく、思春期から青年期にかけて幻覚や妄想などの症状が出現して発症することが多いとされています。治療は抗精神病薬による薬物療法が主体ですが、通常の抗精神病薬を十分量、十分期間使用しても治療反応が得られない、または錐体外路症状の副作用のため十分に薬剤投与が出来ず治療効果が得られない患者さんが統合失調症全体の 20-30%程度存在し、このようなケースを治療抵抗性統合失調症と定義しています。治療抵抗性統合失調症に対して唯一有効性が示されている薬剤がクロザピンで、無顆粒球症などの副作用リスクがあるため、血液内科や糖尿病内科との連携体制を取っている登録された医療機関でしか使用できません。当院では 2015 年から血液内科、糖尿病・内分泌代謝内科の協力を得て、慎重な副作用モニタリングの下にクロザピンによる治療を行っています。治療には治療抵抗性であることを確認し、入院の上 26 週は毎週の血液検査による副作用モニタリングが必要になります。日本ではクロザピンの使用がまだ少なく、治療抵抗性統合失調症患者さんに対する適切な治療が十分に行えているとは言えない状況です。当院では今後も引き続きクロザピンによる治療を推進していきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

心身医療科

小児科



現在、当院小児科ではいくつかの診療グループに分かれています。

「新生児グループ」では出産予定日より早く生まれた未熟児の全身管理と退院後の発達のフォローを行っております。「小児循環器グループ」では、生まれながらに心臓に問題を抱えたお子さんについて、心臓エコー検査や心臓カテーテル検査による検査・治療を担当しています。さらに手術をしたお子さんの成長を長期に見守っています。「腎臓・神経・感染症グループ」では、腎疾患や神経疾患、重症感染症について担当していますが、この他にもアレルギー・膠原病の患者さん、またこころの発達が成熟していないお子さんの診療にも携わっております。さらに、「PICU グループ」では、集中治療を要する重症なお子さんを福島県内の各地から受入れ、治療にあたっています。

いずれの診療グループでも、最新の医学情報をもとに適切な治療を提供できるよう努力しておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

小児科

2面は「総合内科」と「ダイバーシティ推進講習会」のご紹介です。



